



加齢による嚥下機能の低下について

加齢に伴い、「嚥下機能」つまり食べたり飲んだりする働きにも様々な変化が見られるようになります。健康高齢者における嚥下違和感の働きにどのような変化が起こるのか説明します。

1. 口腔の変化

歯の減少、唾液分泌の低下、咀嚼(噛む)能力の低下、口の中で噛んだ食べ物をまとめる力の低下、舌の運動性、口の中に食物を保持する働きの低下

《具体的な症状》

パサパサしたものが食べにくい、いつまでもくちゃくちゃ噛んでいる、のどに送り込むのに時間がかかる、口の中に残りやすい、口から食べ物が漏れてくるなど



2. のどの変化

喉頭(いわゆる「のど仏」)が下にさがる、食道の入り口開きが悪くなる、「ごっくん」のタイミングが遅いなど

《具体的な症状》

のどに食べ物が残りやすい・ひっかかる、水分がむせやすい



3. 食道の変化

食べ物を押し下げていく働きの低下、胃食道逆流

《具体的な症状》

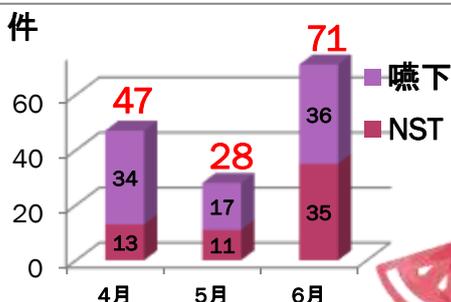
胸のあたりでつかえる感じ、胃酸がのどに上がってくる、のどの違和感



健康高齢者、つまり自然な加齢の変化だけで上記のような症状がでます。その上に様々な疾患が加わり、健康者でない状態に陥るとその症状は更に悪化し顕著になります。また、内服薬や嚥下の働き以外の加齢変化にも大きく影響を受けます。

担当:耳鼻咽喉科主任部長 山本美佐子

月別栄養サポートチーム加算件



●入院時嚥下スクリーニングについて

当院では、入院時に嚥下機能のスクリーニング検査を実施し、個々の患者さんの嚥下機能に応じた食事を提供しております。そのため入院前に召し上がっていた食事形態とは違うものを提供していることもあります。また安全に食べていただくために歯科受診、義歯の作成・調整を勧めたり、食事時の姿勢について指導させていただくこともあります。安全な食事摂取のため、何卒ご協力をお願い申し上げます。